

平成28年度第2回河南町地域公共交通検討会議 会議録（議事要旨）

- 日 時 / 平成28年10月5日（水）午前10時00分～午前12時00分
- 場 所 / 河南町役場4階 大会議室北
- 出席者 / 委員11名／欠席委員5名
事務局5名
傍聴者6名
- 配布資料
 - ・議事次第
 - ・委員名簿
 - ・前回議事要旨
 - ・資料－1：循環バス・山手路線の現状
 - ・資料－2：循環バス・山手路線の利用者アンケート
 - ・資料－3：運行内容の見直し（案）
 - ・資料－4：スケジュール（案）
- 議事次第
 1. 開会
 2. 挨拶
 3. 報告事項
 - （1）利用状況
 - （2）利用者アンケート調査
 4. 協議事項
 - （1）運行内容の見直しについて
 - （2）スケジュールについて
 5. その他
 6. 閉会

○議事内容

■利用状況

事務局から利用状況について説明。

◆意見

- 9月の実績は。
→北部循環バスが1,425人、南部循環バスAが647人、南部循環バスBが111人、南部循環バス（日曜便）が22人、山手路線のA・B合計で108人。
北部循環バスの8月の小人の中に180人、南部循環バスAの8月の小人の64人ということで、非常に数値が多いが、7月・8月が夏休みということもあり、小学生以下の皆さんの人数が今までに比べて非常に上がっているという状況になっている。
- ピーク時で1便当たりでどれくらい乗っているかというのは、最大はどれくらいですか。
→南部Aは、満員になったことがあります。
- 時間を変更したことにより、変化はあったか。
→中学生は余り乗っていない。
- 中学生の利用を考慮して時間帯の変更を行ったが、その分析については。
→1カ月しか統計が出ていないので、今後、収集する中で利用者数も出てくると考えている。また夏休みの7月・8月のデータなので、9月になったら、また少し変化があるかもしれない。
- 利用者数だけを見るのではなく、他の面にも目を向けないといけない。
- 北部循環だけではなくその他の路線についても乗降者数のデータを資料にすべき。
- 北部の大宝4丁目でしたら、乗車は少ないが降車は多い。これは下るほうに歩いて乗り、降車は高いところで行っていると考えられる。このような特徴が見えてくるので、それぞれの資料をそろえていただきたい。
- 金剛バスとの乗継関係というデータはないのか。
→データの的にはないが、循環バス同士、あるいは循環バスと山手路線、その乗り継ぎ人数はデータを取っているので、次回、報告したい。
また、目的地ということで富田林駅、あるいは喜志駅という利用者アンケートの回答があるので、循環バスに乗られて、金剛バスに乗り継ぐという需要のはある。量的な把握については、今後検討したい。
- 収支状況のところ、箕面市、豊岡市のレベルに全然届いていないが、これはそれぞれ

の自治体の状況もあると考える。そこで設定をどこにすることということになるが、この事業にどこまで事業費をかけることができるのかという点がないと判断がつかない。

■利用者アンケート調査

事務局から利用者アンケート調査について説明。

(利用者の満足度、ニーズ、目的等について実施し、調査方法は、ドライバーが車内で調査票を配布。回収方法は郵送回収。調査期間は、8月29日から9月4日の1週間。調査項目は、乗車目的、目的先、利用頻度等。回答状況は、配布数が273人で回収率は34%。)

◆調査結果概要

・外出目的と外出先について

→公共施設の利用、買い物、通院。

・路線バスとの乗継について

→2%の方が富田林へ行っているという回答があったため、循環バスと路線バスの乗り継ぎという利用になる。

・利用した理由について

→歩くには遠い、自家用車が利用できない。

・利用頻度について

→週に2回から4回が全体の36%、次いで週に1回となり、週に1回以上の方が68%。

・運行していないときの移動手段について

→38%の方が路線バスを利用、次に家族・知人による送迎、徒歩。

・運行の情報源について

→町の広報誌を読んでという方が67%。

・運行による生活の利便性について

→89%が生活が便利になった。

・具体的にその生活の質の変化について

→外出回数がふえたという回答が64%。

・公共施設・スーパーに行きやすくなったかについて

→行きやすくなったという方が83%。

・自家用車を利用する回数の増減について

→自家用車を利用する回数が減ったという回答は7割。

- ・満足度について

→やや満足、満足を含めて、全体の8割がこの運行バスに満足している。

- ・改善事項について

→ルート、ダイヤ、運賃、車内、バス停・停留所について、それぞれ回答があり、乗車時間が短くなるルートを運行してほしいという声が多かった。

- ・運行サービス、現在の運行内容について

→毎日運行してほしいという答えが約7割、その他ダイヤ、運賃、社内、バス停の位置等については、満足しているという回答。

- ・運行内容のサービスの向上点について

→ルートの変更が回答としては一番多く、毎日運行、定期乗車券の発行。

- ・運行内容の見直し項目について

→利用者の少ないバス停・停留所、ルートの一部の廃止という回答が約半数。ただ、運行や便数、現在のサービスを維持するために運賃の値上げについては否定的な意見であった。

◆意見

- ・北部循環バスは少しずつ伸びているが、何かしているのか。

→委員会をつくって、このバスを維持していくために今必要でなくても、維持するために乗ろうという機運が一つある。あとは口コミで、バスの話をされていることが大きな要因だと考える。

- ・実施期間については意図があってこの期間としたのか。

→ワーキングの中で、アンケート調査の中身をまとめましたのち、実施させていただいた。

- ・意図を持ってアンケートは実施すべき。

- ・配布数は1週間の乗車人数ということか。

→実施期間中の乗車数は北部が377人、南部Aが153人、南部Bが23人、南部（日曜便）が7人、山手A・Bの合計で48人。ただ、延べ人数ですので、重複された方、毎日乗られている方等につきましては、同じ方には渡していない。

- ・ルートの変更を要望されているのは、南部の方か。

→北部のところが多い。南部の方は毎日運行が多かった。

- ・北部の方がルート変更を要望しているというのは、何を意図されているのか。

→循環バス・山手路線と書くと、自分が乗っている路線の回答をしているのか、システム全体のことを回答しているのかがわからない。北部の方はおそらく他の路線のルート変更に対して回答していると思われる。

■運行内容の見直しについて

事務局から運行内容の見直しについてについて説明。

南部循環バスA・Bの運行ルートを統合し、生まれた交通空白地に対して山手路線と同様の検討。所要時間を短くするため白木バイパスの利用を柱とし、4つのケースを提示。

◆見直し概要

- ・ケース1は運行時間最短ルート。
- ・ケース2はケース1＋鈴美台地域
- ・ケース3はケース1＋芹生谷地域（金山古墳）
- ・ケース4はケース1＋鈴美台地域＋芹生谷地域（金山古墳）
- ・ルートを見直すことによって生まれた交通空白地については、山手路線A・Bを3時間に1本にし、残った4便でこの交通空白地を運行する。
- ・並行してデマンドの運行システムの検討。

◆意見

- ・循環バスの変更にあたって、金剛バスとの協議は行っているのか。

→会議ごとに資料の送付はしているが、当初と変わりなく協議会には参加いただいていない。

- ・金剛バスからの意見は。

→今回の見直し（案）については、まだ直接話はできていない。

- ・路線バスとの乗り継ぎについて分析が足りていない。
- ・山手路線の見直し案が出ており、デマンドの検討を行うということだが、事業者との協議のうえということか。

→将来デマンドということになりましても、事業者と協議のうえとなる。

- ・デマンド運行のシステム構築の検討を行うとあるが、検討を行わないといけない根拠は。

→山手路線については、当初からデマンドという話があったが地元や事業者との協議の結果、現在の定時定路線型に交通会議のほうで承認された。しかし2月からの運行状況を見ながら、より住民の方が利用しやすいような形がデマンドとして求められるのであれ

ば、並行して調査させていただきたいと考えている。

- 定時定路線のほうが割高で、デマンドのほうが割安というわけでは決していない。まずは定時定路線の評価をして、その定時定路線でまずいとなったときの選択肢の一つとして、デマンド運行というのがあるべき形である。
- 毎日運行という意見が地元では強く出ている。それが今回の変更で組み込まれており、道の駅にも行けるので皆さん、喜ぶかなと思います。しかし、山手が3時間に1本となってしまうが、利用者は認めるのかどうか懸念される。
- 一つの案として山手路線と循環バスをうまくつなぎ合わせれば運行時間も短く済み、もう少し便数も上がるかもしれない。
- オークワに滞在する時間は、大体何分か。

→約25分から30分となっている。

- 南部Bのバス停である8、9、10、11、12は路線バスとのバス停を互いにすり合わせることによって、相当乗り継ぎが可能な路線となる。路線も千早線と森屋線の2つが走っているということから見ても循環バスとの乗り継ぎがうまくいけば、南部B路線の乗車数が伸びるのではという見方をしたい。従って路線バスとの乗継のデータが出てから、再度会議の場を設けていただきたい
- 路線バスとの乗り継ぎの件は、仮に（案）とおりとなれば、さくら坂の住民は寺田だけではなく、神山でも路線バスと乗り継げる。寺田より神山の方が路線バスの便数が多いので便利になる。
- 南部Aについて利用は多いが、乗っていないバス停がたくさんある
- 古墳に行くという話があるが、この導入しようとするシステムの中に観光という要素はほとんど入れていない。
- 鈴美台1丁目のバス停廃止というのは困る。
- 鈴美台は需要が少ないが、さくらバスの時とはルートが違う。見直し案のとおり白木バイパスを経由することにより需要喚起が起こると期待はできると思う。
- 鈴美台に関しては、さくらバスのときから人数は多くなかった。そのため老人会等で循環バスに乗る運動やニュースの発行、独自にバス停の設置等は様々な運動を行っているが、伸び悩んでいるのが現状。

■スケジュールについて

事務局からスケジュールについてについて説明。

- 再度資料をそろえた上検討会議開催後、12月上旬交通会議を開催予定。